スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県　鯖江市

自 治 体 名 ： 福井県鯖江市
担 当 課 名 ： 学校教育課　スポーツ課
電 話 番 号 ： 代表　0778-53-2260

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	８４.５９ ㎢
人口	６８,３０２人
公立中学校数	３ 校
公立中学校生徒数	2、０５９ 人
部活動数	（運動部） ４４ 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

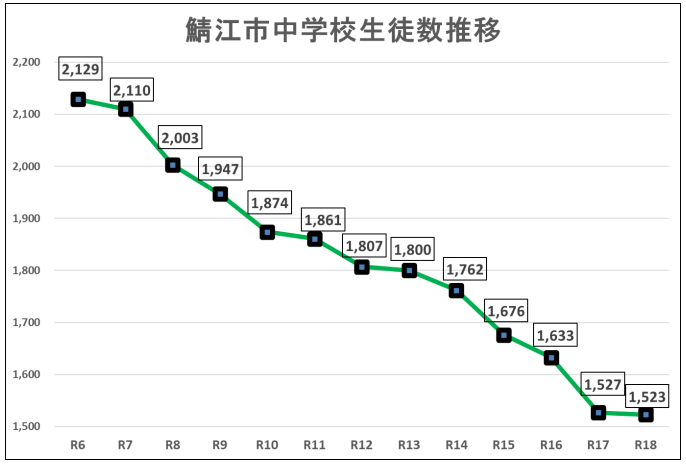
2024.12.1現在

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在の本市地域移行の取組は、令和3年度より国のモデル事業を実践を通して、令和4年度に協議会を設置し、中学校区にある総合型地域スポーツクラブを運営団体・実施主体とすることとした。また、基本方針において、令和5年度から7年度までを学校部活動と地域クラブ活動の併存期間とし、令和８年度に本格開始できる体制づくりに努めることとし、活動拠点は中学校施設、市内施設も活用した準備期間とすることを決定し、休日に活動している部活動の地域移行が生徒や保護者に混乱や支障なく取り組めるよう準備している。

市内中学校は、大規模校2校と中規模校１校であり、現状では生徒のニーズに対応できているが、今後の少子化に向けての取り組みや生徒の多様化への対応、運営基盤の確立の観点から、3つの総合クラブの年会費の統一、合同保険加入を実践し、現在、運営団体が　市全体で運営できる体制づくりの協議を始めた。

総合クラブは会費が必要であるのに対し、学校部活動が無償であったこと、平日と休日の指導者が変わることへの不安など、長年続いた部活動からの変化に戸惑いのある保護者への周知を継続して行う必要がある。



出典：鯖江市教育委員会資料抜粋

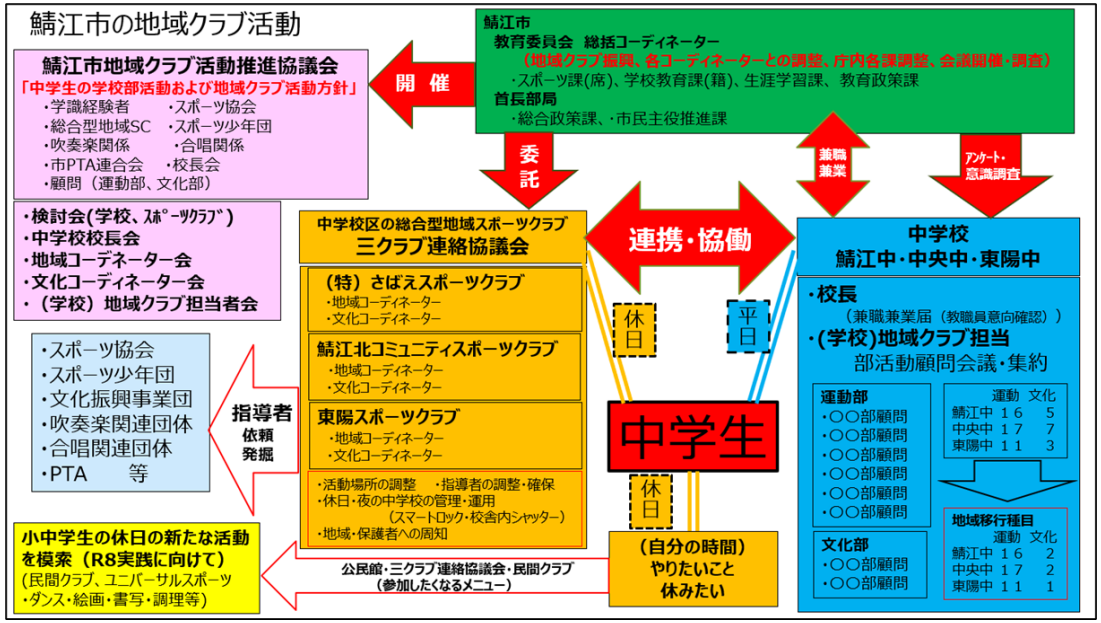
【課題】
〇指導者の質の保証と量の確保
〇地域や保護者への周知（受益者負担）
〇持続可能な活動にするため
・新たな会費設定（R7見直し予定）
・市内総合クラブの運営基盤の確立
・少子化に伴う対応

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・スポーツ課　・・・総合型地域SC、学校開放、公認指導者関連
・学校l教育課・・・学校部活動、兼職兼業関連、地域クラブ活動ホームページ
・生涯学習課・・・公民館活動（社会教育全般）
・教育政策課・・・学校施設整備、管理

◉首長部局

・総合政策課・・・スポーツSDG s （指導者研修会）
・市民主役推進課・・・JK課（高校生との関連）

年間の事業スケジュール

令和６年　４月	中学校長会 （学校）地域クラブ担当者会 地域・文化コーディネーター会
令和６年　５月	三クラブ連絡協議会
令和６年　６月	三クラブ連絡協議会 中学校長会
令和６年　７月	（学校）地域クラブ担当者会 地域・文化コーディネーター会 三クラブ連絡協議会
令和６年　８月	三クラブ連絡協議会
令和６年１０月	中学校長会 三クラブ連絡協議会
令和６年１１月	（学校）地域クラブ担当者会 文化コーディネーター会
令和６年１２月	三クラブ連絡協議会
令和７年　１月	（学校）地域クラブ担当者会 文化コーディネーター会
令和7年　3月	地域クラブ活動推進協議会

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3 校	実施した地域クラブ総数	４４ クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		４４ クラブ（４４ 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	１５９ 人（併存期間、兼職兼業含）	全体の運営スタッフ数	5 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数	会費	大会参加方法
（特非）さばえスポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブ	陸上、バレーボール（男・女）、バスケットボール（男・女）、ソフトテニス（男・女）、柔道、剣道、軟式野球、卓球（男・女）、サッカー、新体操（男・女）、ホッケー	月4回	9:00～17:00 約3時間	中学生（1～3） （陸上）小学生・高校生参加 （剣道）小学生参加クラブ有	4月～3月	・鯖江中学校 体育施設 ※大規模改修により9月より仮校舎体育施設 ・社会体育施設	７０ 人 内兼職兼業 （３３人）	3 人	年会費6,000 円保険料別	中体連：部活動 その他：地域クラブ
鯖江北コミュニティスポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブ	陸上、バレーボール（男・女）、バスケットボール（男・女）、ソフトテニス（男・女）、柔道、剣道、軟式野球、卓球（男・女）、サッカー、水泳、体操（男・女）、バドミントン					・中央中学校 体育施設 ・社会体育施設	５７ 人 内兼職兼業 （３４人）	1 人		
東陽スポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブ	陸上、バレーボール（女）、バスケットボール（男・女）、ソフトテニス（男・女）、柔道、剣道、軟式野球、卓球（男・女）					・東陽中学校 体育施設 ・社会体育施設	３６ 人 内兼職兼業 （１４人）	1 人		

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●生徒企画イベントの開催
・サバーフェスティバル（大規模改修前の校舎を利用してのイベント開催）さばえスポーツクラブ
・その他生徒企画イベント開催に向け、企画委員募集 ⇒ 応募者なし

2.実証内容と成果

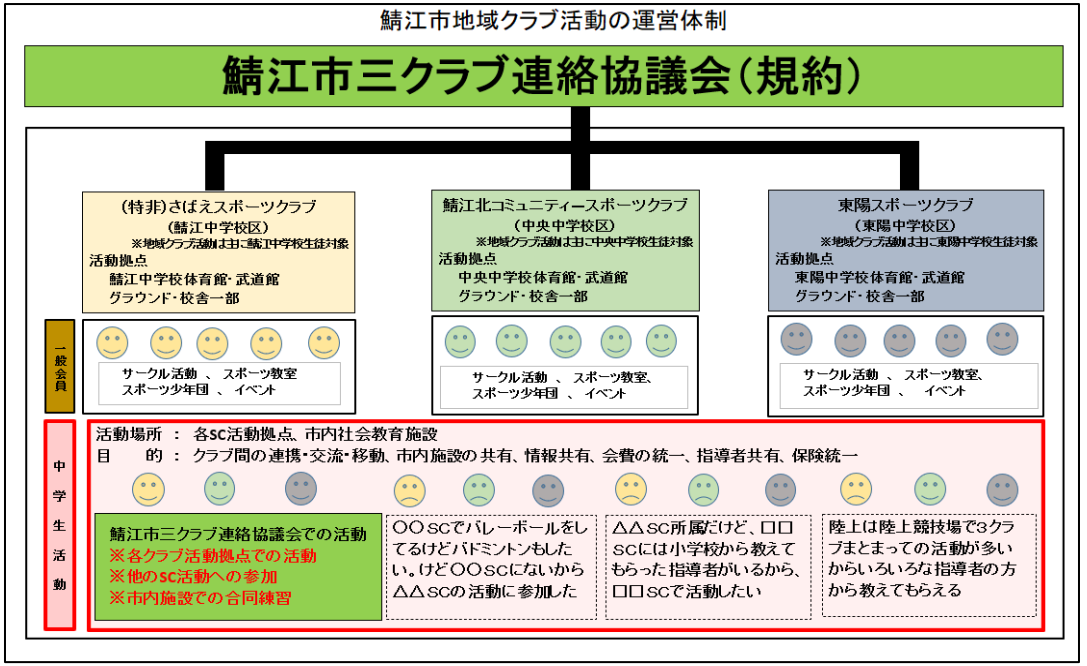
スポーツ庁

主な取組例

●三クラブ連絡協議会　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、柔道、剣道、軟式野球、卓球、サッカー、体操、新体操、サッカー、水泳、ホッケー
運営団体名	鯖江市総合型スポーツ三クラブ連絡協議会 ※組織再編、JSPO認証クラブを目指す (特非)さばえSC、鯖江北CSC、東陽SC ※三クラブともJSPO登録クラブ
期間と日数	全種目：令和６年４月６日 ～ 令和７年３月３０日 月４回程度
指導者の主な属性	総合型地域スポーツクラブ指導者 兼職兼業（教員）
活動場所	中学校体育施設 社会体育施設
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者による送迎
１人あたりの参加会費等（年額）	年会費　6,000円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人　：800円/年 指導者１人：1,850円/年 団体保険 各クラブ：約100,000円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営・活動図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

・統括責任者（各クラブ地域コーディネーター　3名）

役割：各種目の指導者との連絡調整を実施

他クラブで活動したい会員（中学生）に対してのサポート

指導者の質の向上と量の確保に向けた取り組み

・運営スタッフ　５名

役割：社会体育施設での合同練習時の施設調整

指導者謝金関連業務・相談窓口

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

鯖江市では令和7年度までを併存期間とし、令和8年度完全実施に向け、中学校区にある総合型地域スポーツクラブを運営主体とし、中学校施設を中心とした活動を実施。

様々なニーズ対応は、公民館等と協議し、令和8年度からできることの模索・協議を今年度より開始。

会員の中学生は、三クラブのどの種目にも参加できる体制を整え、令和8年度以降、三総合クラブが持続可能な運営ができる体制を整える協議を開始。

取組の成果

〇関係団体との調整

鯖江市運動・スポーツ推進計画推進委員会において、関係団体への連絡・報告等の調整・連携

〇鯖江市役所内関係課との調整

関係課との調整・・・スマートロック・校舎内シャッター設置等

〇小中学生・保護者・中学校教職員とのつながり

鯖江市内小中学生（小４～中２）、該当保護者に対しニーズ・アンケート調査を年度末に実施・公表

教職員への意識調査を年度末に実施

○運営団体の育成

令和5年度にマネジメント等の強化を図るため、令和５年度より全総合クラブのＪＳＰＯ登録団体、今後、認証登録できる団体への育成を図る（現在クラブ再編に向け動き始めており、再編検討会を設置）

○「鯖江市中学校部活動および地域クラブ活動方針」を令和5年度末に策定し、今後の方向を示す。

○顧問と地域指導者の連携・・・地域コーディネーターによる種目ごとの打ち合わせ会の実施

総括コーディネーターの具体的な動きの実績

・運営団体である総合クラブへの指導・助言、アンケート調査
・市役所関係所管課、公民館主事との協議・調整
・市内関係団体への周知（単P、各学校には地域CD）
・運営団体三クラブの持続可能な運営体制の整備（三クラブ連絡協議会）や新たな会費設定に向けた協議

今後の課題と対応方針

令和8年度完全実施に向けた周知や協議に多くの労力が必要である。

周知に関しては、様々な会合や全世帯への配布物をするなど行っても、聞いていない等の連続で、理解が深まらない状況である。

新しい動きであることや他市町と並列に動いていない、正解は誰にも分らない状況での協議や活動は理解を得るのに非常に労力が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

【質の保証】

鯖江市運動・スポーツ推進計画推進委員会において、令和7年度より公認資格取得への支援を決定。（登録バンク）

【量の確保】

関係団体への説明・依頼を継続的に実施。地域CDが地域情報をもとに指導者との面談等を実施。

登録指導者の人数

163名

登録指導者の年齢構成

10代	0名
20代	25名
30代	39名
40代	45名
50代	36名
60代以上	18名

登録者属性

併存期間においては、教職員で協力いただける方には兼職兼業届を提出していただいた。

地域指導者は、スポーツ協会員、元スポーツ少年団指導者など様々な方が登録している。

種目

種目による偏りがあり、民間クラブ等がある種目やクラブ対抗戦を実施している種目は、試合に出場することが目的となっており、気軽に誰でも参加できる趣旨での指導者はなかなか見つからない。

資格有無

登録指導者のうち、有資格指導者は26/162と非常に少ない状況である。

※令和７年度より資格取得支援予定

取組の成果

令和6年3月に「中学生の活動方針」を策定

方針では、平日の学校部活動と休日の地域クラブ活動におけるガイドラインならびに指導者の質の保証と量の確保を明記。

〇学校部活動と地域クラブ活動が連携・協働・融合した活動となること

〇指導者は、学校と地域（各SC）が認めた指導者であること

以上の趣旨に合意できる指導者となっている。

今年度、総合クラブに指導者登録を希望した方がいたが、当事者の指導歴で勝利至上の指導を行っていた経緯があり、クラブの理念・学校部活動の目的から逸脱することから、地域や学校から認められない等の事例が発生した。

指導者関連

	地域指導者				教員（兼職兼業）			
	運動部		文化部		運動部		文化部	
	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6
さばえSC	26	37	2	5	30	33	3	4
鯖北CSC	17	23	2	3	36	34	6	5
東陽SC	21	22	0	0	12	14	1	2
	64	82	4	8	78	81	10	11

R6.12末現在　鯖江市地域クラブ登録指導者推移

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

昨年度末に、中学生（ジュニア）の指導はどうあるべきか、スポーツ・文化とまちづくり、鯖江市の休日部活動の地域移行の展望など、現場の指導者にはまだまだ周知が行き届いていないこと、運営側と現場の指導者側がじっくり話し合う場を設けることなどを目的に指導者研修会を（特）さばえスポーツクラブが実施。

他のSCの地域CDや関係者も同席し、今後の指導者研修会の開催について考えていただく機会をセッティング。

令和6年度は3月14日に3クラブで開催予定。内容は、有名指導者（ジュニア層に必要な指導、コミュニケーション、苦労話）による講演、種で平日と休日の活動に違和感を持たない指導についてを協議予定。

指導者研修の参加実績

・開催日：　令和6年３月１２日（火）
・開催回数：　１ 回
・参加人数：　８４ 人
　（特非）さばえスポーツクラブ主催研修会

鯖江中学校は、部活動関係者がほぼ出席し、地域クラブ活動の展望等を理解。

地域指導者は、部活動顧問と指導や連携について協議

現場指導者の悩みや問題点などを運営側の聞き取り

受講者の声

【現在の指導についての感想、意見、疑問】
・中学生が大人になり指導者として帰ってくるような指導を心掛けたい
・子ども達が楽しい、面白いと思う指導を心掛けて指導している
・女子指導には、女子の指導者が必要だと感じている

【今後に向けて必要なこと、考え方】
・スポーツの楽しいには、勝利、一つの技の習得、仲間との交流など様々であるので、それぞれの楽しみを経験できるようにほめて育てる指導が大切だと思う。
・中学校指導を地域指導者として20数年続けているが、無理をせず、個々の能力に応じた指導をボチボチと取り組むことが子ども達がスポーツを続けることにつながっていくのかなと思う。

今後の課題と対応方針

研修会後、保護者が中心となり、強化目的（来年度は全国大会に行けるチャンスがある）での活動がしたいと地域クラブを立ち上げ、近隣自治体の中学生を入れたクラブ活動を実施する種目が出てきた。

各総合クラブには、市内中学生を中心とした、持続可能な活動および方針に沿った活動を継続的に取り組むよう依頼。

※令和6年度は、令和７年３月１４日　三クラブ合同開催予定

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

説明・依頼団体

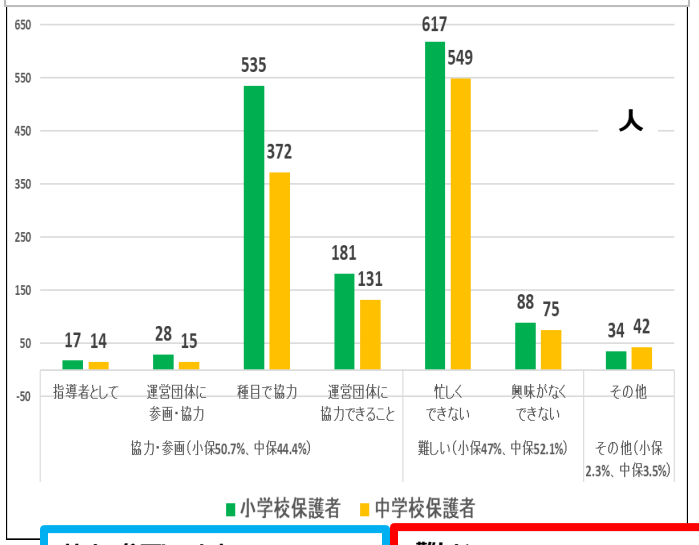
○鯖江市運動・スポーツ推進計画推進委員会
　・スポーツ関連団体
　・障がい者団体
○鯖江市地域クラブ活動推進協議会
　・スポーツ関係団体
　・文化協議会
○鯖江市スポーツ協会
○鯖江市スポーツ推進委員
○鯖江市スポーツ少年団
○鯖江市PTA連合会
○鯖江市内中学校PTA(単P)
○鯖江市社会教育委員会
○鯖江市ライオンズクラブ

取組内容

各種団体の総会や会議など、機会あるごとに鯖江市の中学校部活動地域移行や指導者、連携、今後の見通し等の説明・依頼を継続して実践。

・鯖江市運動・スポーツ推進計画推進委員会
　概要説明による理解、今後の見通しの中で、各団体が何ができるかを具体に提示し、依頼
・鯖江市スポーツ協会（種目協会）
　R5：概要説明、指導者紹介を依頼
　R6：指導者紹介を再度依頼
・鯖江市スポーツ推進委員会
　地域のコーディネーター、県外実践のゆるスポーツ活動紹介
　障がい者スポーツ資格取得支援予定
・鯖江市スポーツ少年団
　JSPO登録が総合型地域SCとスポーツ少年団が統合する予定であり、活動理念の共有が必要であることの説明
・PTA関連
　概要説明、アンケート調査結果提示、指導者紹介依頼
・その他団体
　概要、今後の見通し説明、指導者紹介依頼

休日の地域クラブ活動での保護者や地域人の立場で参画や協力について【小中保護者】



協力・参画してもよい（小保50.7%、中保44.4%）

難しい（小保47%、中保52.1%）

令和５年　鯖江市児童生徒アンケート調査結果

今後の課題と対応方針

団体への依頼ではリアクションは薄いが、その後、個別に話をすると、スポーツ協会では個々に指導者を紹介していただける種目団体も出てきた。

保護者の中から、指導者として登録する方が出てきた。

継続した説明、依頼等が必要と感じている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

鯖江市の地域クラブ活動の取り組みは、市内の子どもたちの活動を中心に行っている。

運営団体である3つの総合型地域スポーツクラブは、中学校区の子ども達の登録、市内活動を主として取り組んでおり、市内どのクラブ活動にも参加できるシステムでの活動となっている。生徒や保護者、指導者間などのつながりで市外生徒が希望した場合でも受け入れることとなっている。

各自治体の役割

鯖江市は、まずは休日の学校部活動の地域移行、次にやりたい種目やまちづくりの観点で、何をしていくかを主に取り組んでいる。

従前から平日・休日に活動している地域クラブ活動は、今までの実績のもと活動していることから、活動への支援や周知等は行っていない。

鯖江市は近隣自治体との連携はなく、独自に取り組んでいるため、他の自治体との連携はなく、役割はない。

移動手段

鯖江市は、中学校施設を主な会場としており、中学生は基本、徒歩と自転車での移動とし、休日に子どもを送迎できない家庭でも参加できることを念頭に取り組んでいる。ただ、保護者送迎できる家庭環境のところは送迎することもある。

市外会員の中学生は、保護者送迎により活動している。

事務局運営の方法

市内三クラブは市内中学生においては、校区のクラブに登録することとし、市外中学生については、市内中学生と同様の対応をしており、特別な対応はしていない。

ただ、入会時に保護者送迎等の有無は確認している。

取組の成果

市内中学生が市外の地域クラブ活動に参加していることから、市外中学生を受け入れる体制づくりの重要さは認識している。

家庭環境が違う子どもたちが、休日の活動を市内外で選択できる場を作ることは大切であり、自治体での連携は必要であるとは感じている。

鯖江市外中学生の会員登録状況

	さばえSC	鯖江北CSC	東陽SC 剣道
1年生	0	0	0
2年生	1	0	2
3年生	0	0	2
備考			越前町2 越前市2

鯖江市内中学生の市外クラブ在籍状況

	硬式野球	軟式野球	水泳	サッカー	バスケ	体操	バドミントン	バレエ	硬式テニス	チアダンス	ソフトテニス
1年生	5	3	2	8	3	1	1	1			
2年生	2		3	12	3					1	1
3年生	2			11	2			2	2	1	
計	9	3	5	31	8	1	1	3	2	2	1

R6.12末現在　鯖江市外中学生活動状況調査

今後の課題と対応方針

・近隣市町と本市との活動内容や考え方の違いにより、他市町と広域で連携することは現段階では難しいが進める必要がある。
・自治体間の調整役が不在である。
・地域クラブ活動には市の税金が投入されており、他自治体の子どもに対し、新たな会費設定が必要との声もある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組の成果

イベントの開催（活動の周知を含む）

(1)総合型地域スポーツクラブの活動に対しての理解を深めるイベントの開催

〇バブルにタイムスリップ

（特非）さばえスポーツクラブイベント（会員・非会員関係なく参加可）

(2)中学生がやりたいことを自ら企画し、実践するイベントの開催

〇「サバーフェスティバル」

（特非）さばえスポーツクラブが主体となり、鯖江中学校が大規模改修前に、現役の中学生が企画・運営したイベントを地域住民に対して開催し、学校の思い出を作る。

〇「とどけ青春！」を三スポーツクラブで、中学生が企画・運営する教室等の開催企画委員を募集

ダンスや料理教室など現役中学生がやりたいことを企画する委員を募集したが、参加を希望する中学生はいなかった。







令和6年度　鯖江市総合クラブチラシ
さばえスポーツクラブチラシ

今後の課題と対応方針

クラブイベントの「バブルにタイムスリップ」のイベントには幼児や小学生・保護者、一般の方が多く参加したが、中学生や高齢者の参加は少なかった。

反省会では、全世代をターゲットにしたイベント開催は難しく、今後、三クラブでどのようなイベントがよいかも含め、協議が必要であるとの認識が共有され、次年度もクラブイベント開催に向け工夫して取り組むこととなった。

中学生が企画・運営するイベントの開催は、学校の大規模改修を機に取り組むことには、多くの中学生が関わることができたが、中学生が自ら企画して休日に実施する企画には、消極的であることが分かった。次年度は、中学生がもっと気軽にできる内容での実践を試す工夫が必要だとの意見をもとに取り組む予定である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等①（会費設定、生活困窮家庭への支援）

取組事項

鯖江市の考え方（会費設定・生活困窮家庭の中学生が気軽に参加できる）

鯖江市内の中学校区にある総合型地域スポーツクラブは、令和3年度に年会費6,000円の統一会費を設定。令和8年度地域クラブ活動の完全実施時より、地域クラブ活動のみ新会費での活動を目指している。（令和7年度にクラブ再編、会費設定の委員会で協議し、令和7年度前半に決定予定）

生活困窮家庭への支援については、総合型地域スポーツクラブ設立時より、支援の議論をしていた。ただ、個人情報の取り扱い、困窮家庭の線引き、事務手続き等のハードルが高く見送った経緯があり、現在に至る。

令和5年度より、休日は地域クラブ活動への参加を促したことから、教育委員会において、生活困窮家庭を準要保護家庭として支援している。

条件は、教育委員会が準要保護と認めた家庭であり、中学生が総合型地域スポーツクラブ会員で、学校部活動の種目や他の種目に参加している家庭とした。

運営団体と学校・教育委員会の連携

【会費設定】

〇基本的な考え方（有識者・市教委・三クラブ・学校での委員会設置）

令和7年度に、令和5.6年度中学生加入状況や保護者アンケート結果・他町の会費情報・持続可能な運営や公的支援等を考慮し、試算。

令和7年度前半に会費を決定し、後半に保護者等に周知予定

【生活困窮家庭への支援】

〇基本的な考え方

・学校部活動の地域移行の影響で生活困窮家庭の子どもが地域クラブ活動に参加できないことを防ぎ、行政・地域・学校で支えていく体制を構築する。

〇教育委員会：準要保護家庭調査、該当家庭決定

生活困窮家庭支援経費の決定

スポーツクラブ会費		6,000
保険料		800
計		6,800

サッカー	登録料	2,000
	遠征費	18,000
	ビブス等	20,000
	消耗品	9,000
計		49,000

バドミントン	ユニフォーム	30,000
	消耗品	9,000
計		39,000

剣道	遠征費	12,000

バスケットボール	登録料	1,500
	遠征費	12,000
	消耗品	30,000
計		43,500

個人支出（PTA会費別）

サッカー	55,800
バド	45,800
剣道	18,800
バスケ	50,300

平均	42,675

令和４年度　モデル種目個人支出調査より　鯖江市

※令和3,4年モデル事業時に、該当種目に対し、1年間の家庭負担額を調査し、生活困窮家庭への支援経費を決定した。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等②（会費設定）

取組

【委員会の設置】

鯖江市総合型地域スポーツクラブ組織再編委員会

・中学校部活動の地域展開を契機に、市内3つのクラブを今後どのように再編していくか（クラブ再編）

・令和7年度末協議会において、令和8年度以降の持続可能な地域クラブ活動会費を設定し、協議会承認後、保護者に周知することが決定

【会費設定参考データー】

・令和5，6年度中学生加入状況

R5:休日活動（部活動加入⇒地域クラブ活動加入）89.1%

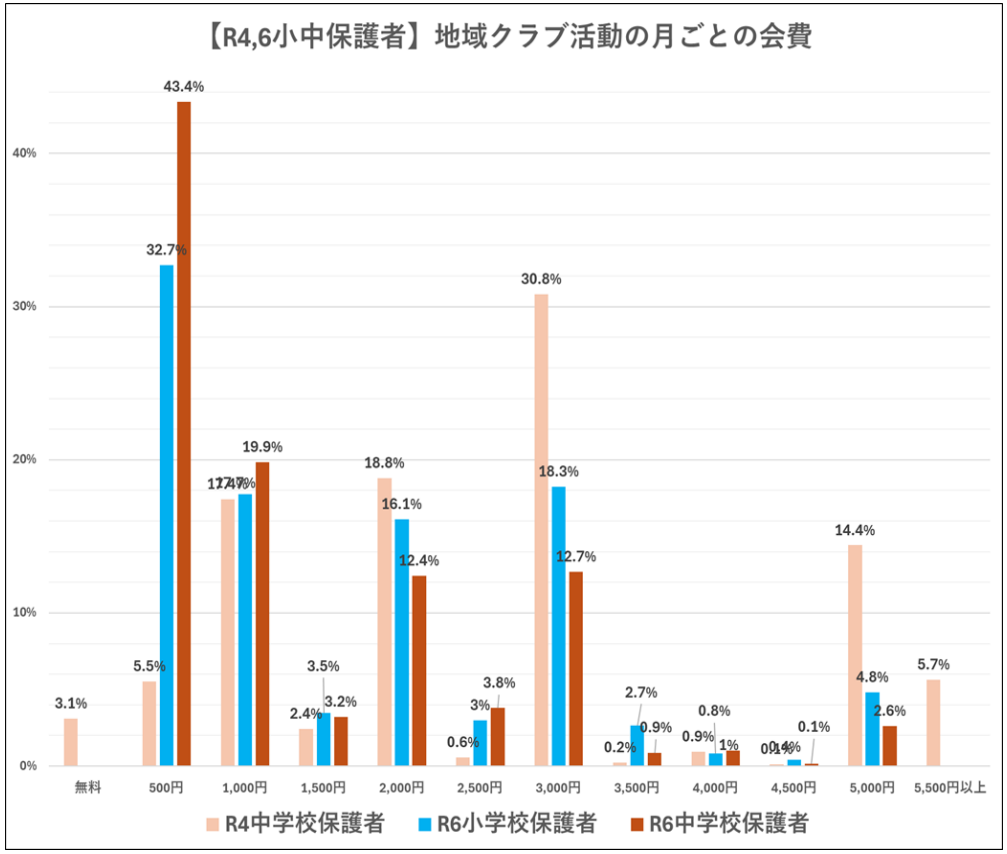
R6:休日活動（部活動加入⇒地域クラブ活動加入）90.8%

・保護者アンケート

地域クラブ活動月会費

・県内他市町情報の収集

県内他市町の会費設定情報を聞き取り、参考意見とする



今後の課題と対応方針

持続可能な運営をするためには多くの会費が必要だが、保護者負担が大きくなることにより、参加を戸惑う家庭が出てくる等の狭間の中での協議が予想される。

委員会では、運営団体の運営・指導者謝金と行政支援、その他収入源等を模索しながらの協議となる可能性がある。

試算イメージにおいては、クラブの自立を考慮し、クラブ意見を尊重した流れの中で作成し、協議を進める予定。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

地域クラブ活動方針として、中学生が徒歩や自転車で通えるよう、活動拠点を、市内各中学校施設とした。

学校管理規則、学校開放規則の見直しに着手。

学校体育館にスマートロック設置を設置し、中学校区の総合型地域スポーツクラブに休日と夜の施設運用・管理を依頼した。

校舎内にシャッターを設置し、校舎を利用する文化活動（主に吹奏楽）、スポーツ関連種目の更衣室、外競技の雨天時の避難等の場所の提供を目的に設置した。

取組の成果

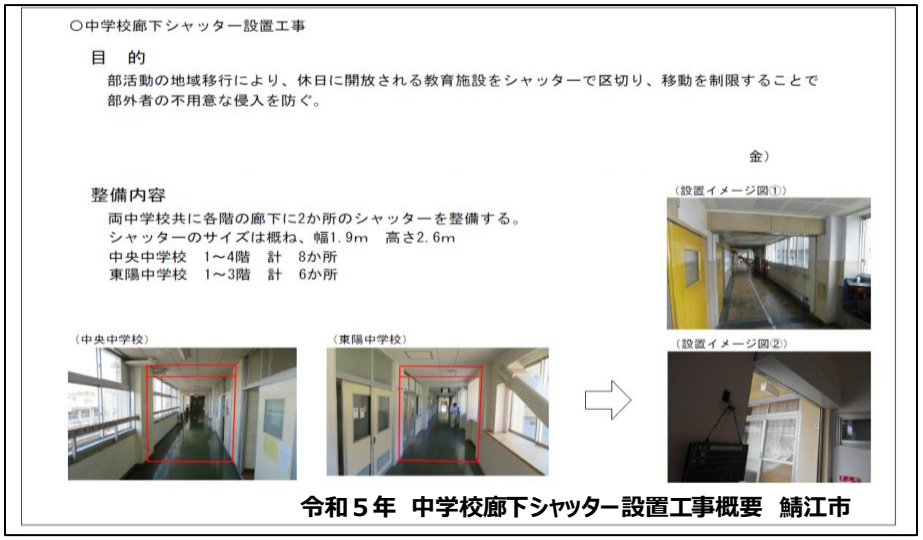
〇スマートロック（令和6年度完全実施）

利用時間帯のみ開閉可能な暗証番号となり、利用する時間にメリハリがついた。

活動日誌（報告）はＱＲコードで可能となり、利用団体の手間が減った。

〇校舎内シャッター

休日の地域クラブ活動が利用できる教室と学校教育活動との同線整備ができた。



令和５年　中学校廊下シャッター設置工事概要　鯖江市

今後の課題と対応方針

〇校舎内シャッター

教職員には、休日前は関連教室、シャッター閉・施錠、休日明けの教室・シャッターの開・開錠の作業が増えることとなる。学校とクラブの申し合わせ事項として、令和8年度から完全実施とし、教職員に作業が浸透するよう依頼中である。

管理職には、スマートロック、校舎内シャッター設置により、学校の鍵の集中管理ができることにより、教職員が休日学校へ来ての業務することなど業務管理ができることを伝えた。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ク：その他の取組

取組事項

鯖江市の休日の地域クラブ活動（陸上）では、市内陸上競技場を活用している。土曜日の活動は、総合型地域スポーツクラブの小学生・中学生・地元高校生陸上部・他地区の高校陸上部・一般など多くの方が利用しており、危険回避のため、小学生が競技場外で活動することもある。

令和4年度からは、中高の陸上関係者により連携した活動は徐々に出てきているが、問題点も多くあることから、鯖江市運動・スポーツ推進計画推進委員会において、令和7年度からは、土曜日午前を市内総合クラブ小中学生と地元高校陸上部の専属利用とし、鯖江市の小中高校生が交流できる場、一貫した指導ができる場を設定していくこととなった。

取組の成果

陸上関係者からは、小中高校の指導者が連携し、施設の有効活用ならびに高校生が指導する場の設定など、様々な活動をしたいとの要望があった。

少子化の流れの中で、陸上を好きになる子どもを増やしたいとの取り組みが、他の種目にも波及するようにしていきたいと考えている。


部活動 休日の地域移行
鯖江 陸上本格スタート
全3中合同、高校生らと汗

R4,10,30　福井新聞

指導者の属性や配置の工夫

○指導者の属性
- ・総合クラブ指導者
  小中学校対象指導者
- ・地元高校陸上部顧問

○工夫
- ・総合クラブ指導者と高校陸上部顧問との協議に総括CDも入り、活動内容について協議

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

一貫指導の考え方としては、小中高校生の交流もあるが、指導者同士が理念の共有や世代をつなげることも大切な要素であると考えている。

陸上指導者間での協議では、小中世代での活動に高校顧問が指導に入る、高校生からの指導（種目によって）を想定。

ただ、指導者を取りまとめるコーディネーターが必要であるとの意見も出た。

今後の課題と対応方針

一貫指導が持続可能な活動とするためには、小中高校の指導者間を取りまとめ、連携を保つコーディネーターの存在が大切である。

本来なら、種目協会が担うことであるが、市協会にはそこまでの活動を実施しておらず、人材不足である。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

鯖江市は、令和8年度完全実施に向け、令和5～7年度を併存期間としており、令和6年度は、準備期間の途中である。

令和8年度完全実施の姿（運営体制、指導者の質の保証と量の確保、各種目指導現場、中学生のやりたい種目への参加、中学生・保護者への周知等）は、現在、三つの総合型地域スポーツクラブ再編の動きや諸活動での市役所内関係課との調整もあり、目指すものがあっても具体の取組には至っていないが、徐々に様々な形で成長していくものだと捉えている。

ただ、進行中だからこそ、様々な団体や立場からの意見を吸収しやすく、よりよい運営体制や指導者での協力を多く得られることができ、将来にわたり地域クラブ活動が充実し、ステップアップができるのではないかと考えている。

また、中学校部活動の地域移行が健康・スポーツ振興のきっかけとなり、他の世代の活動にも注目が集まり、様々な施策やまちづくりを打ち出すチャンスが出てきている。

本市においては、20数年前の総合型地域スポーツクラブ創設時と同様に市や関係団体にウェーブが起きており、運営団体である総合型地域スポーツクラブが改革を余儀なくされ、現在に至っている。令和6年度は、様々な団体、特にスポーツ関連団体の取り組みを見直すチャンスが訪れたとの考えで取り組むことができるようになってきた。

●成果の評価

○鯖江市運動・スポーツ推進計画推進委員会　提案　令和7年度実施項目

・アプリを使った健康・まちづくりポイント制度の創設(高齢者、働く・子育て世代、女性等)

※将来、地域クラブ活動指導者、運営団体関係者にポイント付与できないか

・指導者資格取得支援制度の創設

公認指導者資格取得支援・・・地域クラブ活動、スポーツ少年団

障がい者スポーツ資格取得支援・・・スポーツ推進委員

※将来、地域クラブ活動において、障がい者指導や交流等ができないか

・地域クラブ活動が使いやすい体育施設（学校、社会体育施設）への推進

規則見直し：学校管理規則、学校開放規則

※地域クラブ活動、学校開放事業において、運営団体に中学校施設管理・運用を依頼

休日に市内小中高校生が優先利用（陸上競技場）

※一貫指導ができる場の提供

●今後に向けて

鯖江市運動・スポーツ推進計画推進委員会では、スポーツでのまちづくりに関して様々な意見が出ている。スポーツに参加するだけでなく携わる（指導、運営、サポート）ことはまちづくりであるとの認識が持てるシステムが必要なのではとの意見が出てきており、次年度以降の議論が非常に大切になってくる。

地域クラブ活動を起爆剤として、様々な世代の人たちがスポーツに親しみ、鯖江市の若者が自慢できる鯖江市となるよう取り組む予定である。

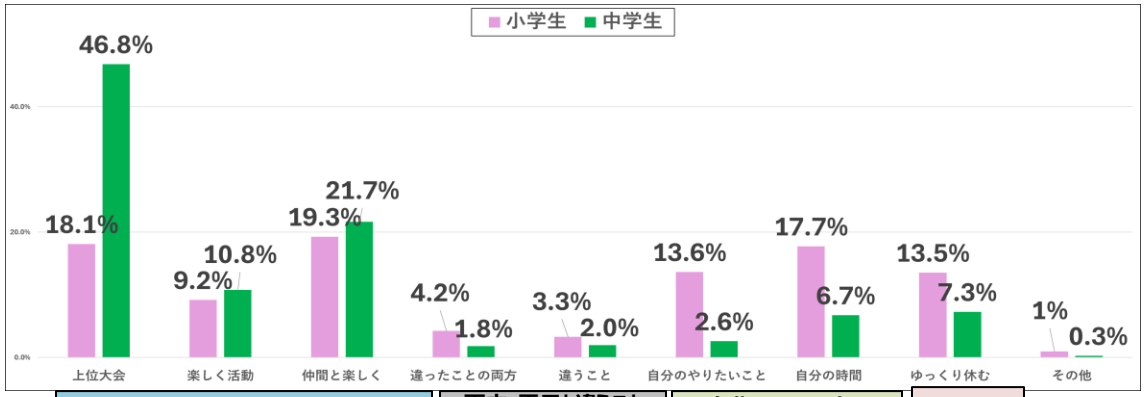
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

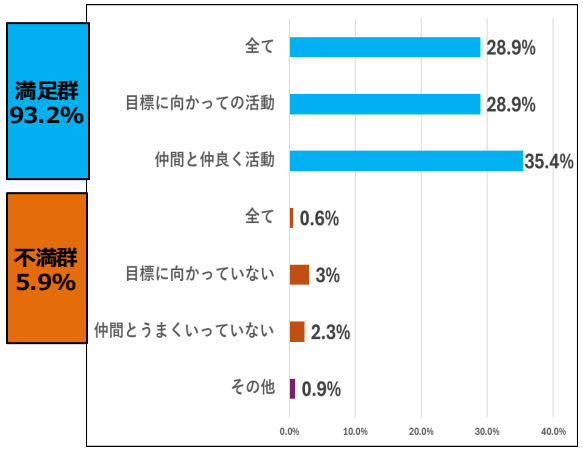
●鯖江市小中学生・保護者アンケート調査結果（R6.12～R7.1）
対象：小学校4～6年生とその保護者、中学校1,2年生とその保護者

Q.【小中学生】(小)中学生になったら、休日どのようにすごしたいか、(中)休日の過ごし方

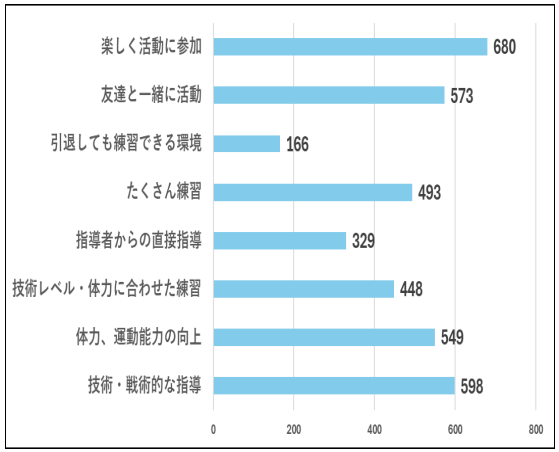


平日の継続・両立	両立・平日と違うこと	自分のための時間	休息
小50.8%、中81.1%	小7.5%、中3.8%	小31.3%、中9.3%	

Q.【中学生】平日の学校部活動について



Q.【中学生】休日の活動に期待すること（複数回答）



●参加者の声（スポーツ・文化共有）

中学生
・専門的な指導を受けることができる。
・平日と変わらないので分からない（指導者・場所）
・仲間といっしょに頑張ることができる

中学生保護者
・変わらない状況で会費を支払う意味が分からない。
・世の中の流れであり仕方ない。子どものやりたいことをやらせたい。
・地域指導者とうまくかみ合わないことがあり、子どもから休日の活動を辞めたいと相談を受けた。スポーツクラブでは、他クラブでの活動も認められており、休日は他クラブの違う種目をしてみてはと助言し体験したところ、今では毎週楽しみに参加するようになった。

指導者
・学校の先生方との話し合では、引率・指導・大会協力など多くの業務があることが分かった。当初は、技術・戦術指導だけかと思っていたが、大変であることが分かり、指導を引き受けたことに戸惑いがある。
・教員のOBを地域でもっと探してはどうか。

指導者（陸上・地域指導者）
小学校から高校までの子どもたちが一斉に練習する形は非常に良い。小学生やその保護者が中高校生の練習する姿を見てあこがれや安心感が持て、陸上を続けたいという子どもが増えるのではないかと期待している。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

広報・周知資料

周知に向けての広報は、鯖江市の会議(鯖江市運動・スポーツ推進計画推進委員会、PTA連合会、スポーツ協会、スポーツ推進委員会等)では、総括コーディネーターにより説明。(資料:国の部活動地域移行資料)

学校行事（入学式、入学説明会等）や学校PTA関連集会（PTA総会等）には、該当地域である総合型地域スポーツクラブが中心となり説明を実施。





【保護者啓発チラシ】 出典:鯖江市三クラブ連絡協議会

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【陸上競技　地域クラブ活動中】



【剣道　地域クラブ活動中】



【軟式野球　地域クラブ活動中】

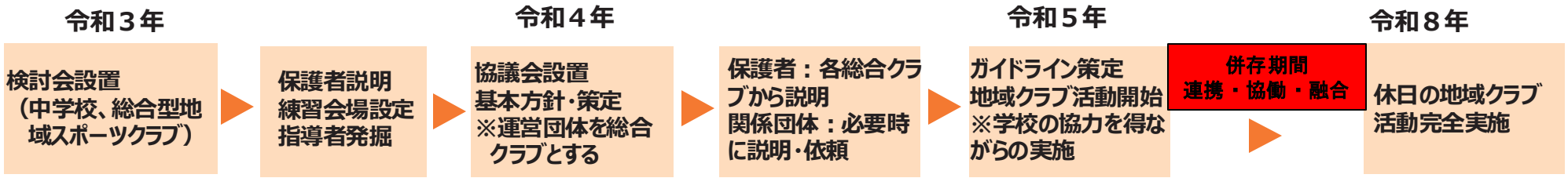


【軟式野球　地域クラブ活動中　練習試合前ミーティング】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー
市内中学校
中学校区の総合型地域スポーツクラブ

●経過
モデル事業において、検討会を設置し、中学校区の総合クラブに運営を依頼

●実施にあたって生じた課題
中学校側の理解が乏しことや会費が発生することへの周知不足等での不安があり、当初は地域と学校間でなかなか協議が深まらないこともあった。

●実施内容、工夫した点 等
国の施策、今後の見通しを少しずつ説明し、事業への協力・理解を得られるよう進めていった。

●ステークホルダー
スポーツ関連団体
　スポーツ協会（種目協会）

●経過
指導者発掘のため、様々な団体に市担当者と総合クラブで説明・協力依頼を実施

●実施にあたって生じた課題
各団体の目的が指導者育成ではないこと、中学生を指導できるものがいない等拒否されることが多かった。

●実施内容、工夫した点 等
団体では拒否されても、個別に話をすると指導者を紹介してくれるところもあり、指導者を個別に依頼していった。

●ステークホルダー
市内中学校
中学校区の総合型地域スポーツクラブ

●経過
令和5年度から7年度末までを学校部活動と地域クラブ活動の併存期間とし、3年間の準備期間を設定。
その間に、運営団体は自立できるよう様々な課題解決を実施することとなった。

●実施にあたって生じた課題
市内中学生のニーズが市内の他総合クラブにあることもあり、連携していく必要が生じた。
運営が大変であるとのことで、三総合クラブ再編の協議がスタートした。

●実施内容、工夫した点 等
令和５～7年度
子どもたちが平日と休日の活動に混乱が生じない活動

・令和5年度（連携時期）
　学校が主体となり総合クラブが連携する地域クラブ活動
・令和6～７年度
　（連携・協働時期）
　学校と総合クラブが主体となり、ともに地域クラブ活動
・令和8年度（融合時期）
　総合クラブと地域が主体となり地域クラブ活動

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

連　携
主体は学校、地域と共に

協　働
主体は地域、学校と共に

融　合
地域主体

		併存期間（指導者は教員で協力了解の方に協力依頼）			休日完全実施	
R3国モデル事業	R4国モデル事業	R5県補助事業	R6国実証事業	R7	R8	R9
検討会（中学校、SC）	検討会（中学校、SC）	協議会				
鯖中：剣道、柔道 中央：サッカー、バド 東陽：男バス	鯖中：＋ホッケー、女バス、陸上 中央：＋剣道、女バス 東陽：＋女バス	鯖中：運動16種目、文化2種目 中央：運動17種目、文化2種目 東陽：運動11種目、文化1種目	鯖中：運動16種目、文化2種目 中央：運動17種目、文化2種目 東陽：運動11種目、文化1種目	鯖中：運動16種目、文化2種目 中央：運動16種目、文化2種目 東陽：運動10種目、文化1種目	休日地域クラブ活動完全実施 平日地域クラブ活動について協議	
	総括CD配置	総括CD・地域CD・文化CD配置				
・市教委運営	・各スポーツクラブ運営		・スポーツクラブ組織再編委員会		・新しい組織での運営	
・検証・R4総合型地域スポーツクラブに運営を依頼	・児童生徒、保護者アンケート調査	＋教職員意識調査	＋会費調査、教員の協力意思確認			
	・基本方針策定	中学校部活動および地域クラブ活動在り方方針策定				
	・文化関連も取組むことの合意	文化部関連地域移行開始				
		・小中学校スマートロック設置	・正式運用			
		・中学校校舎内シャッター設置	・段階的な運用		・正式運用	
		・困窮家庭への支援（教委）				
		・新たな会費設定協議 （現在：年会費6,000円＋保険料）	登録者・指導者数、指導者謝金、運営費等を見て試算	・新たな会費決定	・新たな会費開始	
				中学生企画・運営 休日体験会の開催	公民館を活用した活動	

運営主体（中学校区の総合型地域スポーツクラブ）
・特定非営利活動法人さばえスポーツクラブ
（鯖江中学校区）2000年（H12）
・鯖江北コミュニティースポーツクラブ
（中央中学校区）2007年（H14）
・東陽スポーツクラブ
（東陽中学校区）2006年（H14）
※中学校　体育館・武道館・グラウンド（ナイター設置）